

東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第8号です。当会報は会の行事、活動計画、各種お知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

# 東風季報

発行  
東北風景写真家協会  
仙台市宮城野区榴ヶ岡3-8-15  
東北カラーデューブ(株)内  
tel: 022-256-2141  
編集 秋葉・進藤

## 東北風景写真家協会 平成二十一年第二回セミナー 「わたしの風景写真」 秦達夫先生

三月二十一日 戦災復興記念館に於て、秦達夫先生のスライド&トーク、「わたしの風景写真」が多くの会員の参加のもとに開かれました。秦先生は本会名誉顧問竹内敏信氏門下で太平洋写真学校講師もお勤めです。バラエティに富む多くの作例をプロジェクトで示しながら、驚きと熱気あふれるセミナーとなりました。なるほどと思うことや目からうろここと感じたことなど、場面を思い浮かべながら振り返ってみます。

### 北上川河口

皆さんに結構大きい。感度4000も馴染みのヨシ刈り風景やダイナミックな日の出の表現に、フレイミングや露出など散々苦労されたことでしょうか。とにかく迷った時は迷っただけシャッターを切ることで、波と光は数分で変わってしまします。機敏に動くこと、三脚をかまえてゆっくり風景と向き合うことを日ごろから訓練しましょう。

### 花火

絞りが優先(8くらい)で花火が上がり始めてからオートで撮ると露出もピンとOK。シャッタースピードはプラス、マイナス補正で加減できる。最近のデジカメは高感度に強く、優れた機能は生かしましょう。

### 自然風景

今年はどこも雪が少なく暖冬ですが、こんな時しか撮れないもの、例えば苔と雪など、を撮る工夫をしよう。渓谷や滝など一度きりでなく、何度も通うことで目に見えない四季の変化も見えてきます。

### 月明かりの滝

満月前後2、3日の月の光度は驚く。海がめの撮影で

れない。またRAW現像にはパソコンも高性能のものが必要とする。

近くフジフィルムから手作りのジャバラ式中判カメラGF670が限定発売されること、試用の結果はかなり良さそうとの紹介もありました。



セミナー会場の様子



袋田の滝 南湖の夕日



新緑輝く観音沼



阿武隈川源流の滝

当協会第2回撮影会企等で添乗員同様のお働きを画が5月19、20日の日程で実施されました。参加者は椎名・竹内両顧問を含め総勢20名。最少催行人数は30名でしたが、撮影担当の丸山幹事長と渡邊副会長、更に両顧問のご尽力と大きく観光(株)の旅行代理店初仕事のご協力で実現できました。特に丸山幹事長には事前準備から、パラスカが飛びやすいので注意が必要。

### ニュージラント

雲に隠れてしまふことの多い最高峰(3765m)のマウントクックの夜明け前や羊の群れ、さらには秦氏自身の40mのパラソングラフの場面にカメラが飛びやすいので注意が必要。

### アラスカ

マイナスイオンが、ガソリンコンロさえ火がつかなくなるほど必要。RAW現像はソフトにより違い、将来、新しいソフトで良くなるかも知れない。

### 尾瀬

至仏山、ガス、三本松、湿原の花などの作例を示されながら、背景を見ることの大切さを説かれた。日が昇る前の撮影が肝要である。注意深く観察してシーンを捉えよう。

### 屋久島

自然の驚異も言うべき、自然のオブジェを探し出した情景を示された。特に南国と思われている屋久島の冬は、マイナスイオンの凍結下での撮影であることに驚く。海がめの撮影で

## 第2回東北風景写真家協会撮影会企画 椎名顧問・竹内顧問と行く撮影会・報告

等で添乗員同様のお働きを画が5月19、20日の日程で実施されました。参加者は椎名・竹内両顧問を含め総勢20名。最少催行人数は30名でしたが、撮影担当の丸山幹事長と渡邊副会長、更に両顧問のご尽力と大きく観光(株)の旅行代理店初仕事のご協力で実現できました。特に丸山幹事長には事前準備から、パラスカが飛びやすいので注意が必要。

### 見事の中です。

ホテルでの夕食後のミーティングも早く終え、翌朝4時にホテルを出発。観音沼での朝日に輝く新緑風景を撮影。朝食後は阿武隈川源流渓谷にて新緑と滝、川面に映り込む緑光等を撮影出来ました。

### 今回の撮影会

は参加者が少なかつたのは残念でしたが、大型バスでゆったりと座る事が出来、撮影も全てに亘って余裕が持て、また、現地に詳しい椎名顧問のご案内と木目細かなご指導を頂き、「云う事なし」の撮影会でした。勉強会も実施の予定ですので、お時間が合えば会員の皆様も是非お出掛け下さい。

### 中判カメラで撮ってみませんか

氏はカメラ雑誌への寄稿を使わなくても、645の中で次のように述べている。「風景写真が盛んな映像を生み出すことが可能となった。誤解のないようにしておきたい目立つようになってきた。35ミリ判とは異なるのだが、中・大判カメラにより、35ミリ判カメラよりも、645Nである。少々でも役立つならばと思

### 佐々木 康照

ラを駆使して、優れた風景写真を撮っている方がたくさんおられることは言うまでもない。前述の竹内敏信氏が、35ミリ判カメラによる風景写真を世に広めた先駆者たること

## お知らせ

写真コンテスト上位入賞者  
旅写真4月号  
秋葉 健一「森の目覚め」  
フォトコン5月号  
太平洋写真学校北上教室  
金賞 渡邊 善夫  
「今日も大漁だよ」  
新規入会会員紹介  
二十一年三月以降入会された会員さんです  
秋田県能代市 大和英男  
山形県天童市 斎藤民雄  
秋田県大仙市 佐藤 登  
秋田県能代市 納屋晋一  
以上四名の方が入会され五月現在九十五名です。

### 第1回撮影会実施開催

5月に実施予定と前号でご案内しましたが、第2回撮影会と日程が重なった為今年秋の紅葉シーズン開催に変更いたしました。楽しみにされていた会員の方にはお詫び申し上げます。

### 今後の撮影会企画について

第2回撮影会は椎名顧問に現地をご案内頂き、我々の知らない場所にて撮影が出来、大変印象深い撮影会となりました。

### 今後の撮影会に付きましても出来るだけ現地に詳しい方に参加頂き、ご案内頂ける様にしたいと役員一同考えております。

秋田滞在記 雄物川河口の夕日

秋田滞年在七年目、写真とにした。

を始めて十一年目、秋田に来て秋田らしい被写体に巡り会っただろうか！自分らしい写真が撮れたらどうか？

三月のある日、素晴らしい場所があると、当社の社員が教えてくれた。それは、「雄物川河口だよ」とのことだった。

た、これが筆舌に尽くしがたい様相を見せてくれた。素晴らしい！夕日が砂浜に見事な彩りをなしている。写真に表現出来ないか？挑戦するこ

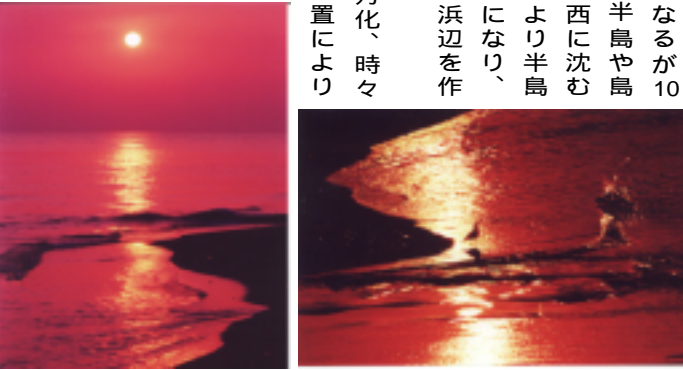
す。この半島で雄物川側と海側の太陽の反射が異なる。川側の反射は川の流

の強さと、海より押し寄せる波との衝突による変化がまた面白い。波が逆

巻き川を遡る波のトンネルの鮮やかな紅の色、海鳥が浜辺の何か虫？餌

を啄ばみにつちよるす。これも絵になる光景である。

沖合いでは川の流れと海波が衝突し三角波ができ、夕日と組み合わせると荒々しい光景になる。



これが千変万化、時々刻々太陽の位置により色彩、波の高さ、波の引き具合で砂浜の面積が変化し、太陽の反射が様々な輝きを創りだ

東北風景写真家協会に入会してから、自然風景への想いや、社会への想いなど、頭の中を駆け巡りました。地球という星が出来、水、空気、動物、植物等が存在しているから、私達は生きていくことが出来ます。当たり前のように見えることですが、今、私達はもう一度しっかりと自然と社会を見つめ、考えなくてはならないと思つて

います。自然は決して、一人では生きていけないよ、と語っているようにも思えてなりません。四季の

写真美術館めぐり 前田真三写真ギャラリー「拓真館」

近代風景写真の巨匠と呼ばれた前田真三氏の個人ギャラリー「拓真館」は美瑛の丘にあり、廃校になった小学校の建物を利用して一般に公開している。氏の代表作である「麦秋鮮烈」(左の写真)など美瑛の風景を中心に売り絵作家らし

い、綺麗な作品を80点以上常設展示している。最近長男の前田晃氏の作品も加わり、親子の写真鑑賞できる。さらに、真三氏の作品を晃氏が解説する案内板を設け、写真ファンに喜ばれている。美瑛の繊細で雄大な風景を切り撮った写真は訪れた多くの人々に感銘を与えている。

周囲には一万本のラベンドー畑や白樺林に繋がる美瑛の丘が広がり、「夢のある風景」の絶妙な撮影スポットになっている。上高地をはじめ日本各地を撮影していた前田真三(竹内正)

す。見えるところから、見えないものの奥を表現することでしょうか。話は変わりますが、去年の九月、国の特別記念物自然保護鳥「朱鷺」は佐渡から一〇羽が自然の世界に放たれました。現在、佐渡には八羽おりますが、その中の一羽は行方不明でしたが、十二月十四日になくなってしまったところを見つかりました。もう一羽は私のふるさとの村にいます。私はきつと現代の社会を考

三氏が北海道に足を踏み入れ美瑛、富良野で目にしたのが、真っ赤に染まった赤麦の「麦秋」であり、この作品が名作「麦秋鮮烈」となった。この地に惚れ込みギャラリーの開設を決意した氏が最初に候補地とした富良野では断られ、美瑛に開設の運びとなったが、現在では全国的に有名観光地となった美瑛を考えると皮肉な巡りあわせと言えよう。(竹内正)



写真...こんな話 あんな話 クイズ 飛び交う写真用語の意味は？

長年、写真を撮っていると普段になげなく使っている言葉が、写真をやらない人からみたら、意味不明なことがあります。結構オタク的な言葉で組み立てられています。また、写真仲間や写真専門店の人とまるで外国語をしゃべっているように聞こえることがあります(ほとんどがカタカナ混じりだから)。次の文字を読んで解釈してみてください。

- ・置きピン、前ピン、後ピン
・アオリ撮影
・絞りを閉じる
・開放絞り
・キャッチライト
・光を燻す
・ハイライト、シャドウ、トーン
・Aモード、Sモード、Mモード
・露出補正と調光補正
・流し撮り
・AE、AEB、AF、MF、EV、ISO、PL、69、68、67、66、645、36、24、328、

さあ、できましたか？ 解った方は6月末まで「事務局・あんな話こんな話」係りまで封書にてお送り下さい。最も正解の多い方にサヤカな景品をお送りいたします。(正解も送ります)では、みなさん頭を痛めましょう。(丸山慎一)

自分の好きな住みやすい環境を求めていったのではないかと、そして、そこが朱鷺の本場の故郷なのかもしれないと、そう考えてしまつたのです。壊した自然は決して元には戻らないということ痛切に感じさせられます。朱鷺がきてからは村に多く人が入ってきたといいますが、どうかそつとしておいていただきたいと思

「こんな話、あんな話」のシリーズ、今回はクイズしかも賞品付きです。もう一度、不可解な？言葉の意味を考え、さらに調べてみると、きつと賞品にも勝る成果があるでしょう。チャレンジ！

編集後記

最近フィルムカメラの入手さえままならず、写真はデジタルカメラとなる方も多い。フィルムでも写してみたいという希望はないだろうか。また35ミリフィルムカメラからステップアップしたい方にも、中判カメラへの興味は尽きないものでしょう。

中判カメラ愛用の会員からとっておきの趣意をご披露いただくことにしました。これから何回か取り上げていく予定です。

前号では南正一さんに写真展「予定のない黒板」について長文のご寄稿をいただきました。前号では写真展に直接関連する前半を掲載しました。今回は後半の内容にそつて、「自然と社会を見つめよう」というタイトルで掲載しました。南さんの自然と社会への想いと実践活動が伝わってくることでしょ

自然・社会を見つめよう

南正一

春には待つていたかのようになに咲き始め、森の中では新しい命が誕生し懸命に生きようとしています。暑い夏が過ぎ、葉を落としまた長い冬に入ります。その自然の風景は繰り返してきます。自然から借りたものは自然に、社会から借りたものは社会に返しなさい。そして私は自分の幸せは借りものなのだといい言葉も知りませんでした。自然は決して、一人では生きていけないよ、と語っているようにも思えてなりません。四季の

た。すべての欲を捨てた。「無」になって始めて物事や、被写体を素直に見ることが出来るのだと思いました。その「無」の「ゼロ」がカメラで言う風景にはさまざまなドラマがあり、美しさ、優しさ、儚さや、強さ、暖かさがあり、私達の心を豊かにし、人生に夢や、希望、勇気を与えてくれます。

近くには土門拳記念館があり時折時間を作り出す。そのプラス、マイナスも現代の社会にあてはまるのではないかと思う気がしてならないので

拓真館 北海道 上川郡 美瑛町 字 拓進 〒071-0474 9~15時(季節により変動) 年中無休、入館無料 美瑛駅より車で15分 電話 0166-92-3355

